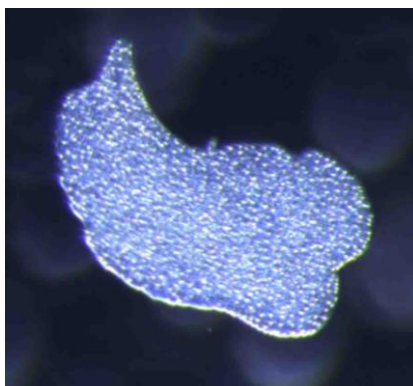


笹川科学研究助成で芽吹いた平板動物の研究

筑波大学 生命環境系 下田臨海実験センター 中野裕昭



笹川科学研究助成に申請当時、私はスウェーデンでの約6年間の研究生生活を終え、助教として日本での研究を立ち上げたばかりでした。せっかく帰国したのだから、何か新しい動物を用いた実験系を立ち上げたいと思い、筑波大学下田臨海実験センターでも採集可能な平板動物（写真）に着目しました。しかし、このように知名度の低い動物の研究はなかなか研究費の獲得が困難です。笹川科学研究助成は「新規性、独創性または萌芽性をもち、発想や着想に意外性をもった研究」を優先的に助成しており、平板動物のようなマイナーながらも系統的に重要な生物の研究などはまさにこの条件に合致していると考え応募しました。

あえて私がここで強調したいのは、笹川科学研究助成は大学院生やポストドクター研究員だけのものではないということです。一般科学研究では、常勤研究者でも「任期付き雇用研究者」ならば応募可能ですし、海洋・船舶科学研究では「所属機関等で研究活動に従事する者」と募集対象者がかなり広がっています。私の周りでは、過去に助成を受けていた研究者でさえもこのことを把握していなかった人が多く、「助教でも笹川科学研究助成って受けられるんだ」と何人にも言われたのを覚えています。

私は「日本における平板動物の地理的分布及び遺伝的・形態学的多様性の解明」という課題で採択していただき、日本全国5カ所の臨海実験所に行き、全5カ所で平板動物を採集することに成功いたしました。また、この過程で、日本の海洋生物研究者にあまり知り合いのいなかった私にも、各地の臨海実験所に今でも続く、人とのつながりを築くことができました。私の力不足で助成を受けているうちに結果をまとめることはできませんでしたが、その後も実験やデータ解析を続け、2014年に **Scientific Reports** 誌に論文として発表することができ、また、その論文を新聞記事でも紹介して頂きました。

以上のように、助成を頂いて行った研究は成果としても、また、人とのつながりを築くという点でも非常に実りの多いものとなりました。今後は、笹川科学研究助成のおかげで芽吹いた日本産平板動物の研究をさらに発展させることで、日本科学協会に恩返しして行きたいと思います。